

感染状況

- 新規陽性者数は、7月20日以降、2万人を超過する日が続き、26日には過去最多の25,762人が確認。
依然、前週同曜日を大きく上回る大規模な感染が続いている。
1日あたり4万件前後の検査を実施しているが、陽性率は連日50%を超過し、市中での感染がまん延している状態。
人流は年末年始相当の高い水準で推移しており、人と人との接触機会が多い状況が伺える。
- 府の直近1週間の変異株スクリーニング検査では、BA.5系統又はBA.4系統疑いの検出が8割を超え、国のアドバイザリーボードではすでにほぼ置き換わっているとの見解。
- 感染はどの年代にも広がっているが、特にワクチン未接種者が多い10代以下に感染が拡大し、18歳以下は直近1週間で4万人超。
また、60代以上の高齢者にも拡大がみられる。
- 大阪府が実施している重症化リスクの少ない陽性者（50代以下が9割以上）へのアンケート結果からは、回答者（4,306人）の8割以上に発熱がみられ、無症状は1.6%に過ぎないことから、若年層においても十分な注意が必要である。
また、感染の心当たりがあると回答した1,776人の当該場面における感染対策実施状況として、5割弱がマスク未着用、6割強が換気を十分にできていない、8割以上がソーシャルディスタンスが十分でなかったと回答していることから、アンケート回答者の感染者の大半が、感染予防対策に不十分さがあったことが伺える。
- クラスターは、7月に入り急増しており、医療機関関連や高齢者施設関連だけではなく、児童施設関連や大学・学校関連でも増加。
高齢者施設や障がい者施設（入所）の9割弱には、連携医療機関や往診等による医療介入がなされ、その他施設でも保健所等での健康観察が実施。
また、7月における医療機関関連や高齢者施設関連クラスターは、2月と比較して1施設あたりの陽性者数が減少（単純計算であり、一部施設では大規模化）。
- 3回目接種の割合は、全年齢では5割超であり、30代以下では5割を下回っている。4回目接種は65歳以上で14.3%。

入院・療養状況

- 病床（重症病床・軽症中等症病床）使用率は、大規模な感染が続き、急速に上昇しており、7月27日に大阪モデル「非常事態」（赤信号）移行の目安となる50%を超過する見込み。
重症病床使用率は、上昇しているものの、6.6%と低水準で推移しているが、今後、1日3,000人前後の高齢者の陽性が確認されていることから、重症者の増加が懸念。
重症病床については、25日付でフェーズ3への移行を受入医療機関に通知。
軽症中等症病床の運用率は約7割となり、ひっ迫の傾向。7月21日、受入医療機関に対し、フェーズ5（緊急避難的確保病床を含む）への移行（8月4日～8月31日）を通知。
- 入院率は、26日で1.4%と過去最低で推移。
直近1週間の入院調整時の入院患者の年代割合は、70代以上が全体の7割以上を占めており、症状としては、中等症I以上が全体の8割以上に増加。
- 上記のとおり、10代以下に感染が拡大しており、小児症例の入院調整が第六波の約3倍に増加。小児病床の運用率は7割を超過しており、今後、小児患者受入病床のひっ迫が想定されることから、病床確保を要請。
- また、救急搬送困難事案件数が7月中旬から急激に増加し、高止まりしている。今後、コロナ疑い患者だけではなく、熱中症患者の救急搬送も増加が予想されることから、一般救急医療のひっ迫も懸念。
- 軽症中等症病床における長期入院患者は、7月中旬より増加。軽症中等症病床の入院患者の平均入院日数は、第五波や第六波より短い。

大規模な感染継続に伴う現状

- 1日2万人を超える大規模感染が継続し、**検査需要が急激に増大。医療機関の外来体制が極めてひっ迫。有症状者全員が迅速に診療・検査を受けることが困難。**
- **保健所体制については、第六波の大規模感染継続を踏まえ、業務の重点化や、医療機関のHER-SYS入力促進、事務処理センター設置等の業務負担の軽減・効率化を図ってきたが、業務がひっ迫。60代以上の高齢者が1日3,000人前後確認されるなか、重症化リスクの高い高齢者等への対応が円滑に進まなくなるおそれが高くなっている。**
- **医療・療養体制については、軽症中等症病床の増床に取り組んでいるが、病床確保には限界があり、当該病床の想定入院人数は4,000人程度であることから、確保病床外での対応を要する患者が急増している。**
医療従事者の感染等により医療人材の大幅な不足も懸念され、また、熱中症患者も増加することで救急医療も今後ひっ迫のおそれがあり、医療提供体制は急激にひっ迫する可能性が高い。
宿泊療養においては、1日の入所可能居室数を上回る療養希望者の申込みが急増し、自宅待機者（自宅療養者及び入院・療養等調整中患者数）は16万人を超過。
- **上記状況から、現在の感染規模が継続した場合、検査体制や保健・医療療養体制における非常事態となり、重症化リスクの高い患者への迅速な対応すらも困難となると考えられる。**

今後の対応方針について

- **BA.5系統の感染力の高さや人流、夏休みやお盆など感染機会の拡大に伴い、当面、現在の大規模感染が継続することが予想される。**
第七波に備え、検査体制や保健・医療療養体制の更なる整備・充実に取り組んできたが、**現在の感染規模が継続した場合、検査、保健所の対応、医療療養体制いずれにおいてもキャパシティの限界に来るとい、未曾有の事態になることが大きく懸念される。**
- ⇒**府民においては、重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患を有する方（以下、高齢者という）の命と健康を守るため、高齢者ご自身と、高齢者と接する機会のある方には特段の行動変容が求められる。**
また、上記に該当しない方々におかれても、第六波以前のようなまん延防止等重点措置又は緊急事態措置のような強い行動制限を回避し、社会経済活動を極力維持していくために、これまで以上に、**基本的感染予防対策の徹底や、マスク会食など感染リスクを低減する個々人の行動変容に向けた取組みの徹底が求められる。**
- ⇒**府においては、今後、大規模な感染が継続した場合、医療機関の外来体制のひっ迫を最大限に抑え、重症化リスクのある方等の受診機会を確保するため、診療・検査医療機関受診対象の重点化の検討を行う。**
また、**保健所業務の更なる重点化として、ファーストタッチ等を行う対象者を75歳以上に引き上げることなどや、宿泊療養の優先運用の徹底など、重症化リスクの高い方の命を守る対策を徹底していく。**
そのために、**オンライン診療・薬剤処方の強化や自宅待機SOSにおける相談対応の充実など、自宅療養者が医療にアクセスできる仕組みを整えていく。**